

FD研修会

内田研究室における実践教育 —新潟市西区における官学住の連携の事例より—

2014年11月26日

内田 亨

目次

1. 内田研究室について
2. サブゼミについて
3. 官学住連携プロセス
4. 官学住連携当日イベント
5. 反省
6. アウトカム

1. 内田研究室について

1-1. 内田研究室概要

(1) 卒研究生の人数

4年 8人 3年 9人

(2) 独自のスタイル

①サブゼミの実施

先輩から後輩への指導

②外部との交流

西区役所および自治協議会との食育企画等

専門学校との交流

③内部との交流

小山田ゼミとの合同ゼミ

小宮山研究室とのすいか祭り合同参加

1. 内田研究室について

1-2. 卒業研究全体の流れ

2013年後期		サブゼミ		2014年前期			サブゼミ		2014年後期							
9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月

9月～3月

- ・経営情報学会聴講
- ・さいたま起業家懸賞
金付学生論文発表会(3・4年)
- ・地域デザイン学会
発表(4年)
- ・経営情報学会発表
(於:本学)
- ・8大学連携ワーク
ショップ
- ・三条の工場見学
- ・20kmウォーキング

4月～7月

- ・食育イベント準備
- ・いくとぴあインビューア
- ・西区大農業祭すいか
祭り出店
- ・新潟市主催未来力
フェ
- ・新潟県副知事の講演会
- ・新潟県委託事業 大
学生の力を生かした
集落活性化

9月～1月

- ・食育イベント
- ・日大、桜美林、
専修、神奈川、
高崎経大、本学
合同ゼミ発表会
- ・卒業論文
発表会聴講
- ・企業の役員による
卒研指導

2. サブゼミについて

2-1. サブゼミとは

(1)先輩が後輩をサポートする。

(2)週2コマでの実施で、本ゼミの土台作りや、ゼミ論文の指導を行っている。

(3)サブゼミの実施は本学では珍しい試みで、現在実施している研究室は内田研究室をはじめ増えつつある。

(4)本を章ごとにまとめ・考察・プレゼンする。

嶋口充輝, 黒岩健一郎, 内田和成 (2009)『一からの戦略論』碩学舎
マイケルサンデル(2011)『これからの正義の話をしよう』早川書房

2. サブゼミについて

2-2. サブゼミのアウトカム

- (1)先輩、後輩で結束力ができる。
- (2)先輩から授業のアドバイスをもらえる。
- (3)内田研究室生の中で団結力ができる。



3. 官学住連携プロセス

3-1. 食育イベント



3. 官学住連携プロセス

3-2. イベント目的

- (1) 西区ふれあいまつりに来場したこどもや大人を対象に、イベントを通して楽しむながら西区の特産品を知ってもらう。
- (2) おいしさを伝えるにはどのようにしたらよいのか考えてもらう。

3. 官学住連携プロセス

3-3.イベントの概要

- (1) 事業名:自治協議会提案事業
- (2) 予算:70万円
- (3) 組織:
 - ①官:新潟市西区市役所
 - ②学:新潟国際情報大学 内田研究室10人
日本こども福祉専門学校 星研究室5人
 - ③住:自治協議会 第三部会
- (4) イベント内容
 - ・ブース
のつべの無料試食、郷土料理の展示、レシピ配布
 - ・ステージ
食材当てクイズ、味覚言語表現

3. 官学住連携プロセス

3-4. 日本こども福祉専門学校

- * 開校:1982年
- * 学科・コース:保育分野・介護分野
- * 習得可能資格
 - 1.保育士
 - 2.幼稚園教諭二種免許状
 - 3.社会福祉主任用資格短期大学士
 - 4.子ども身体運動発達指導士
- ※学生には高校新卒以外も少なくない。

3. 官学住連携プロセス

3-5.自治協議会

- * 区自治協議会は、新潟市が目指す分権型政令市を実現するための機関。
- * 市民と行政との協働によって、住民自治の推進を図るために、各行政区に設置する市長の附属機関。

3. 官学住連携プロセス

3-6. 役割表

グループ名	役割	詳細
PLANIST	イベント準備・ 当日運営	(1) 西区の特産品調査 (2) アレルギー調査 (3) 料理を選定 (4) 当日のイベントサポート (5) アンケート
STY	広報	(1) ポスター・チラシ原案作成 (2) 業者に発注 (3) チラシ配布 (4) 当日のつべ無料配布
表す課	言語辞典作成	(1) 言語辞典作成 (2) 配布用レシピ作成 (3) 来場者に西区郷土料理の説明 (4) アンケート回収

3. 官学住連携プロセス

3-7. 分担表

グループ名	担当:内田研究室	担当:星研究室	自治協議会
PLANIST	五十嵐 吉田 佐藤	阿部	佐野
STY	山崎 米持 坂井 田中	涌井 萱場	鈴木
表す課	鈴木 赤澤	高島 小黒	玉野

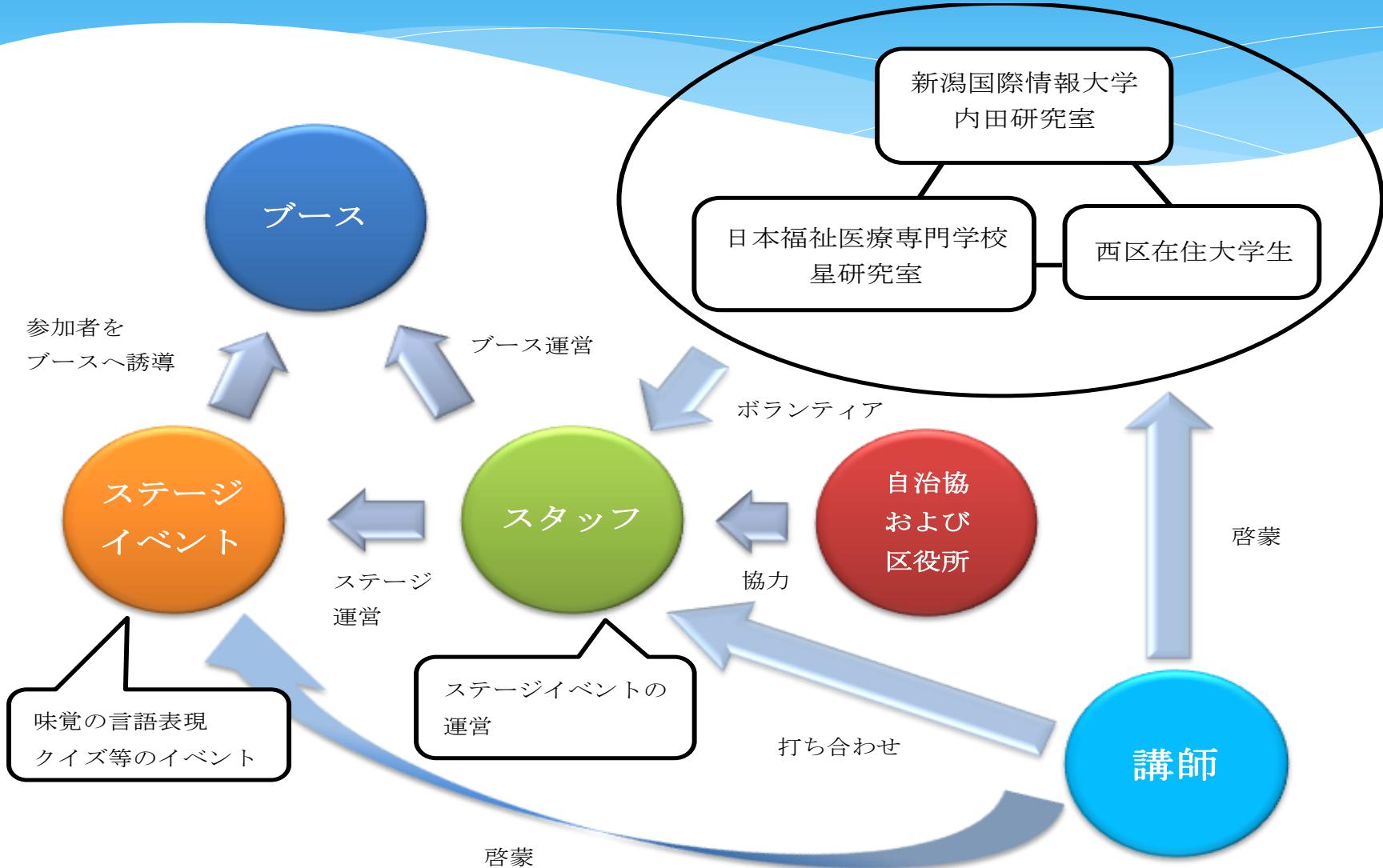
3. 官学住連携プロセス

3-8. 専門学校生との話し合い



3. 官学住連携プロセス

3-9. 関係図



4. 官学住連携当日イベント

4-1. イベント当日



・ブース写真



・ステージイベント写真

4. 官学住連携当日イベント

4-2. ブース

(1) のっぺ無料試食

(2) 西区の郷土料理紹介

(3) 言語辞典展示

(4) レシピの配布

(5) アンケート

4. 官学住連携当日イベント

4-3. のつpeの無料試食

- (1) 100人分ののつpeを調理
(サトイモ 5.0kg、人参 1.5kg、
塩引き鮭 3kg)
- (2) 調理人数5人 調理5時間
- (3) 試食は、わずか開始30分で終了

4. 官学住連携当日イベント

4-4. 西区の郷土料理紹介

西区郷土料理紹介では実物の展示、レシピの無料配布を行った。



4. 官学住連携当日イベント

4-5. 言語辞典の展示

* 言語辞典とは

1. 目的

食育イベントで使用する味覚表現パネルを作成するための言語辞典の作成を行う。

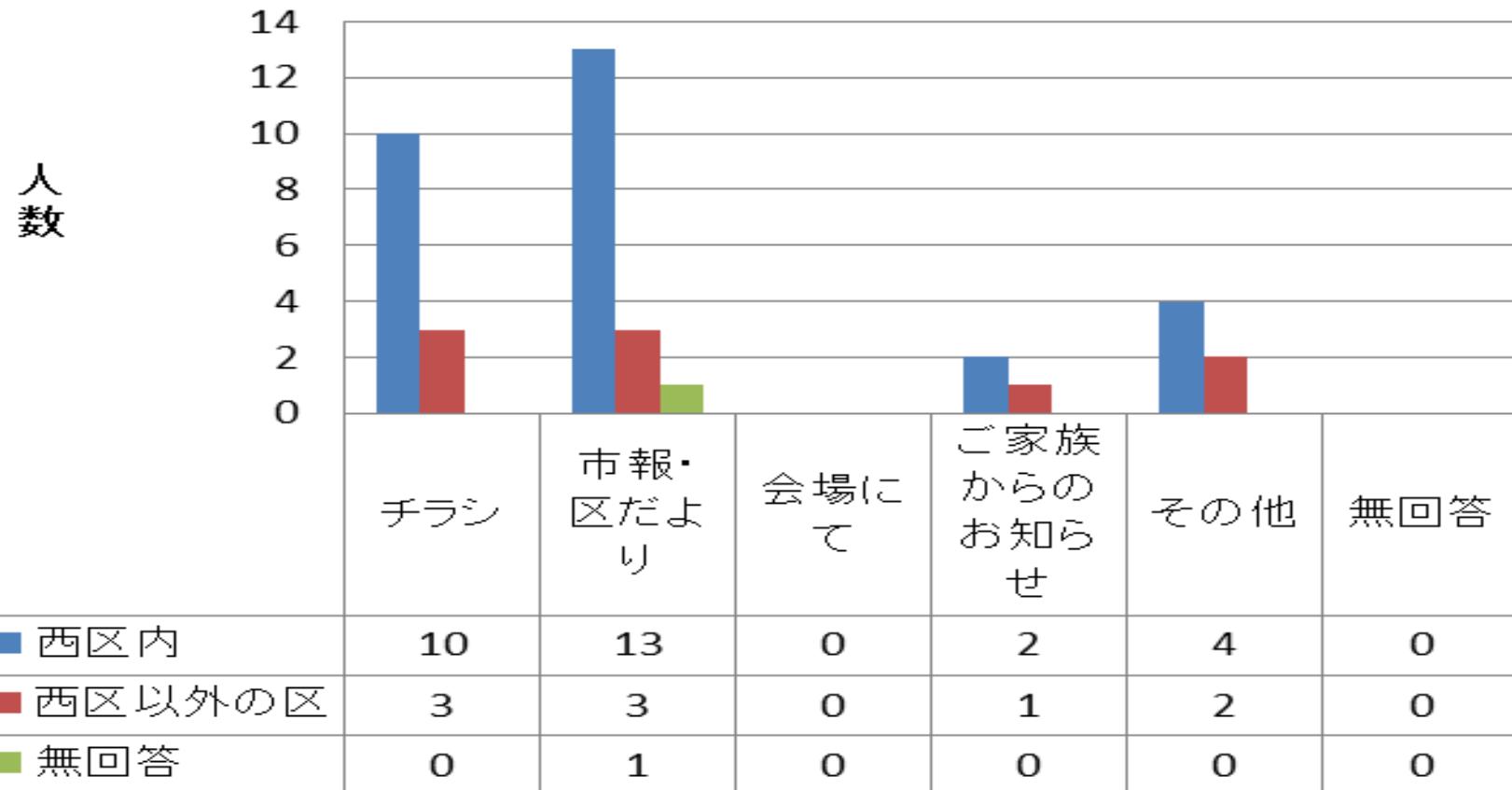
2. 作成手順

- 2.1 エッセイ、料理漫画等の味覚表現を抜き出す。
- 2.2 抜き出した味覚表現の意味、用法を調べる。
- 2.3 調べた内容をWordで辞典調に作成する。
- 2.4 参考文献を一覧にする。

4. 官学住連携当日イベント

4-6. アンケート結果

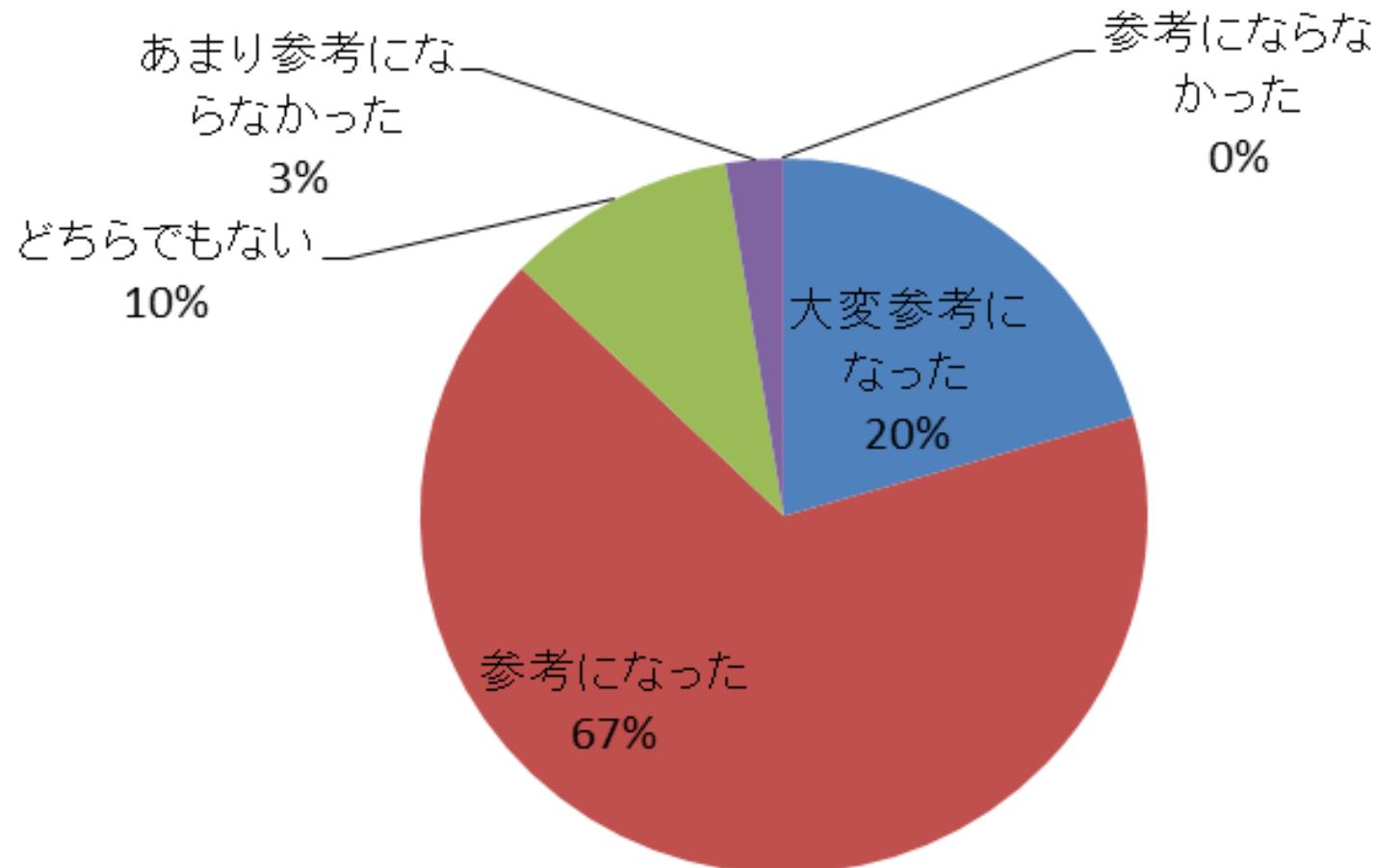
住まいと今回の企画をどこで知ったかをクロス集計



4. 官学住連携当日イベント

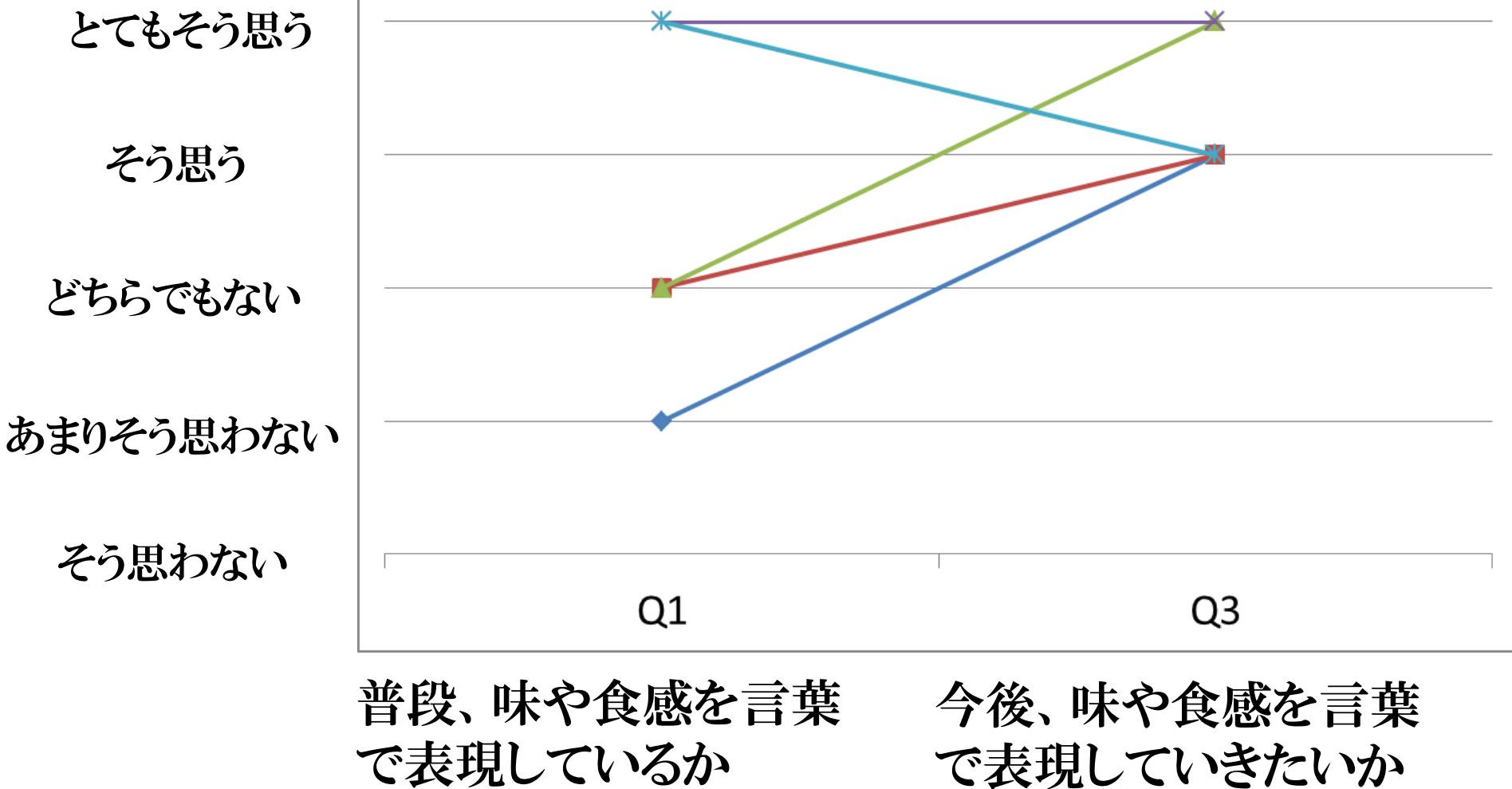
4-7. アンケート結果

Q5. ブースの展示・説明内容は、今後の食生活の参考となりましたか



4. 官学住連携当日イベント

4-8. アンケート結果



4. 官学住連携当日イベント

4-9. ステージイベント



4. 官学住連携当日イベント

4-10. 食材当てクイズ

お題:目隠しをした状態で2つの食材を食べて、何の食材を食べたのか当ててもらう。

	概要
対象	子ども対象 中学生以下の年齢層
時間	計30分 (前半15分・後半15分)
人数	計10人 (前半5人・後半5人)
問題数	計2問 (前半1問・後半1問)
食材・料理	前半:サツマイモと里芋 後半:看豆と冷凍枝豆

4. 官学住連携当日イベント

4-11. 味覚の言語表現

お題：食べた料理の味を上手く表現してもらう。

	概要
対象	大人対象 中学生から年配の方まで
時間	計30分 (前半15分・後半15分)
人数	計10人 (前半5人・後半5人)
問題数	計2問 (前半1問・後半1問)
食材・料理	前半：懶寿司 後半：蓮の実ご飯

4. 官学住連携当日イベント

4-12. 問題の結果(食材当てクイズ)

* サツマイモとサトイモ

正解者:5名

サトイモ自体がネバネバとしていて分かりやすかった。



* 枝豆と肴豆

正解者:0名

食感自体も変化がなく、冷凍豆のほうが甘みが強かった。肴豆は少し大人(苦味)の感じがした。

4. 官学住連携当日イベント

4-13. 問題の結果(味覚の言語表現1)

* 麵すし(参加者の回答例)

「初めて食べましたが素朴で懐かしいような味
がしました。『麺』がフワフワモッチリして美味
しかったです」

「あつさり、さっぱり、ハドごし良く親しみのある味」



4. 官学住連携当日イベント

4-14. 問題の結果(味覚の言語表現2)

* ハスの実ごはん(参加者の回答例)

「ハスの実、はじめていただきました。栗のような感じでホクホク感があり素朴な味でした」

「柔らかく少し苦味もありハスの実のホクホク感もありました。おこわが少し固めでしたががおこわにあいました」



5. 反省

5-1. 前日までの反省点

* PLANIST

第3部会にアンケートを提出し、見てもらったがアンケートの内容の練りが甘くほぼすべての項目で指摘をされてしまった。

* STY

チラシの配布枚数を西区内の公共施設と予定を立て発注したが、区役所の方がすでに自治体の方面に配り終わってしまつており、チラシが余ってしまった。うまく連携が取れなかつた。

* 表す課

こども福祉専門学校の先生と連携がうまく取れなかつたために、メールや郵送での連絡を勘違いすることがあつた。

5. 反省

5-2. 当日での反省点

* イベント

1. 日程の調整がうまくいかず、予行練習が足りなかった。
2. イベントの参加者を最終的には集められたが、スムーズにはいかなかった。
3. 司会者の方と事前に打ち合わせができなかった。

* ブース

1. のっぺ汁の搬入時間が遅れたが、お客様には好評だった。
2. 好評すぎて、のっぺが早く終わってしまった。

→原因：配分の計画性や需要予測の失敗

3. 役割分担を臨機応変という曖昧な形にしてしまったために各分担で人が足りなくなっていたりした。

5. 反省

5-3. 反省の分析

		反省度	
		高い	低い
重要度	高い	去年のデータが必要 準備がギリギリだった 分担を適切にする	リスクへの対処 アンケート調査の改善
	低い	連携の重要性 事前のスケジュール調整	資料の作成方法 特産物への理解

6. アウトカム

1. サブゼミで4年生が3年生に知識を伝授することにより、本人の知識の体系化と定着が図られた。
2. 官学住との連携によって、学内で得られない困難を体験した。
3. 自分たちの力不足による課題が明確になった。
4. 正解のない状況で、自分たちで考え、より良い方向へ発展させていく力が得られた。
5. 多様な外部の人たちとのコミュニケーションとチームワークの重要性を認識した。